

佐賀西高校サッカー部インターハイ県予選帯同報告

期間：平成 28 年 6 月 3 日（金）

場所：佐賀清和高校

研修者：平石 大樹（リハビリ部主任）

下川 聖哉（理学療法士）

今回、佐賀西高校サッカー部のインターハイ県予選へ帯同させていただく機会を得たので報告する。

目的：インターハイ県予選での選手のサポートを目的とする。

<活動内容>

1. 試合前の評価及びコンディショニング

今回、治療されている方はキャプテンで予防的な理由で治療を受けています。キャプテンとして、チームから離脱できないため身体のケアをしっかりと行っている様子です。非常に責任感のある方でした。



2. 試合中のサポート

試合中のサポートとしてベンチ入りメンバーにストレッチの仕方を指導し、実際にハーフトイを使ってスターティングメンバーのストレッチを実施し時間の効率化を図りました。後半戦では1名の選手が接触プレーによって故障し、戦線離脱するアクシデントに見舞われました。私達も接触された際はすぐに駆けつけ、選手の状態判断お

よび PRICE の処置を行い、幸い怪我はひどくありませんでしたが、復帰までに時間が要すると判断され、選手交代となりました。



3. 試合後のケア指導

試合後のケアとして当院でも指導しているセルフストレッチを指導させて頂きました。やはり試合後ということもあり、足をつる方多く見受けられました。佐賀西高校は進学校でもあり、勉強する時間も多く、自分の時間も作りづらい状況です。そのためか、ストレッチが疎かになっており身体が硬い選手が多く見受けられました。もちろんの事、身体の柔軟性の低下はパフォーマンスの低下に大きく関わるため、その重要性とともにストレッチを指導させて頂きました。



今回、佐賀西高校サッカー部は前半 0-1 と先制されるも、後半で 2-1 と一度は巻き返しましたが 2-2 と同点に追いつかれ PK 戦となりましたが、残念ながらインターハイ県予選で敗戦を喫してしまう結果となりました。しかし、ハーフタイム時のミーティングでは監督に頼りきりではなく、選手同士で話し合い、自分自身で考え行動しようとする姿が見受けられました。そのような選手達の集まりで、最後の戦いとなるインターハイ県予選ということもあり選手の方々の緊張感を肌で感じました。その中で私達自身も責任感を持ち精一杯サポートすべきだと選手達を見て実感しました。このように帯同で実際にスポーツの現場に携わり、改めて治療するにあたって理学療法士として知識、技術、正確性、スピードが一気に試され

ることが帯同であると感じました。そして、私達は今後どうあるべきなのか考えさせられた帯同でした。今回の帯同で患者さんの背景を少しでも多く知る必要があるのではないかと思います。なぜなら患者さん一人ひとりその時にかける思いが違うと思います。高校生で例えるなら大学まで目指すため今は試合に出なくても良い方、怪我してもいいから今、試合に出たい方など意見は様々です。私達は皆さんの声を聞いてそれに見合う結果を出す必要があると感じました。今後、患者さんに関わっていく中で人生の一助となるために責任感を持って治療することが必要だと思いました。

<終わりに>

今回帯同させて頂いた監督、選手の皆さんの中にチームの一員として迎え入れてくださった皆さん心より感謝申し上げます。そして不在中は患者さんや病院のスタッフへ多大なご迷惑をお掛け致しました。この経験を無駄にせず、日々努力したいと思います。